

一般社団法人全国専門学校情報教育協会(研修委員会)  
平成27年度 研修ニーズアンケート  
教員・職員

●調査時期  
平成27年4月15日～平成27年5月8日

●発送数                    78 件(校)

●回答数                    42 件

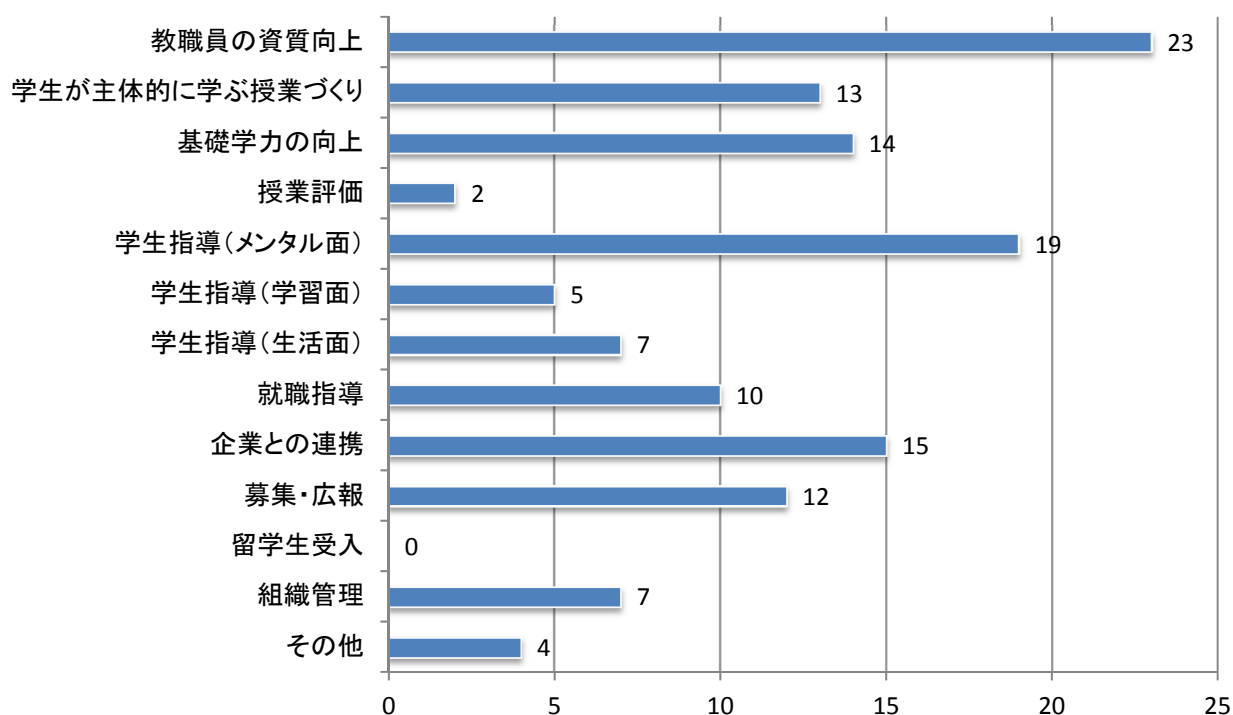
●協力校数                20 校

●回答率                    25.6 %

問1. 担当されている業務の課題として緊急性の高いと感じているものに○を付けてください。

S.no	項目	回答	%
1	教職員の資質向上	23	54.8%
2	学生が主体的に学ぶ授業づくり	13	31.0%
3	基礎学力の向上	14	33.3%
4	授業評価	2	4.8%
5	学生指導(メンタル面)	19	45.2%
6	学生指導(学習面)	5	11.9%
7	学生指導(生活面)	7	16.7%
8	就職指導	10	23.8%
9	企業との連携	15	35.7%
10	募集・広報	12	28.6%
11	留学生受入	0	0.0%
12	組織管理	7	16.7%
13	その他	4	9.5%
	合計	131	-

※%の母数は回答者数(=42)、複数回答



#### 問1-13. その他

- ・学生との接し方に関する研修 ハラスメント 等の研修
- ・エンロールマネジメントを考慮すると上記のすべてが重要と考える。
- ・技術研修
- ・学校法人会計基準改正に伴い処理、科目などの変更について
- ・事務処理の効率化

問2. 問題や課題を解決するために、どのような研修・セミナーがあったら良いと思いますか？

S.No	研修テーマ	内容・形式・講師等	到達目標、レベル等	対象者	日数	実施時期
■教員の教育力向上：教授法、授業の作り方、技術習得、教材開発など						
1	教職員の資質向上	教職員の連携が図れるようなもの。 コーチング理論などが応用できるといいかと思ひます。	—	—	—	—
2	FD	基本的な原点に沿った「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための取組み」 特に新任教員へのファシリテータが上手なスタッフ。	授業・・・“伝えること” と“説明すること”は異なること	新人	1日程度	—
3	技術研修	それぞれの分野に関する企業を交えた研修	実務レベル	教員	2日	11月
4	新卒教員のための 学生指導講習	本校に着任する教員は新卒が多いので、デザイン、陶芸などの技術面以外の情報教育の面と強化させる内容		教員	1日	—
5	iOSアプリ開発	ハンズ オン セミナー	—	—	—	—
6	Android及び iPhone,iPadのiOS	・スマホアプリ(初歩)中級、上級 ・アプリ活用 ・アプリ開発とセンサ活用法 ・アプリ作成、開発 ・アプリプロデュース(企画)など	—	教員	2日	8月下旬 ～9月
7	AR活用	カメラ付き端末を利用した講義や演習	AR技術を利用したアプリ作成	教員	2日	8月～9月
8	モバイル端末プログラミング	モバイル端末を利用した講義や演習	センサーやNFC等端末の機能を利用したプログラム作成	教員	2日	8月～9月
9	Ruby	PCを利用したプログラミングの演習と講義	簡単なアプリケーションの作成	教員	2日	8月～9月
10	教職員の資質向上 のために必要なスキル	講義、ワークショップ形式、事例などを上げて行う。	教員同士で目標の共有などが円滑に行えるようになる。	中間管理職	2日～3日	8月
11	3DCGデジタル処理	地方では3DCGやデジタル処理に強い人材が少ないため、最新の技術やテクニックを知りたい	モデリングやアニメーション作成	教員	半日～全日	夏期
12	デザイン教育における企画・コンセプト作成方法の指導について	グループディスカッションやコンセプトメイキングについて分かりやすく指導する方法を実践を交えて	専門学校2年生対象レベル		1日～2日	8月

S.No	研修テーマ	内容・形式・講師等	到達目標、レベル等	対象者	日数	実施時期
13	インストラクショナルデザイン活用研修	事例研究(ディスカッション)グループワーク指導法	担当科目の分析を行い、15週の授業設計とシラバスを作成することができる。	全教員・職員	3日/18時間	—
14	教員の教授力向上のためのセミナー	さまざまな教授法についての習得	—	教員 1日	—	—
15	iPadを使った教育事例	ICT機器(iPadなど)を使った、具体的な教育事例について。導入のプロセス共有など。専門学校の事例があれば尚良い。	緊喫の課題となっている学校がすぐに使えるレベルだと良い	教職員	1日	いつでも
16	やる気にさせる授業計画と実施方法(評価)	ケーススタディ	—	—	—	—
17	授業教材開発・デジタル教材セミナー	適切な授業教材開発の教授、事例発表形式。デジタル授業ツールの使い方や使用例などPC・デジタルタブレットなどの取り入れ方など。	事例発表・使用例の理解。初級レベルでの授業教材の採用レベル。	教員全般	半日～全日	夏期
18	3Dプリンターの教育利用について	・3Dデータ制作からプリンターの活用方法 ・事例紹介	3Dプリンタの活用方法の習得	教員	1日	8月
19	ファシリテーター育成	・グループ形式 ・問題解決型学習	学生が積極的に課題に取り組むために必要なノウハウを手に入れること。	教員全員(特に新任者)	3日程度	6月頃(新任者が慣れたころ)
20	インサイトを探る	・グループ形式 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション	学生の表面的な言葉や態度だけで判断するのではなく、深層心理の部分まで分かるようになる。	教員全員	3日程度	特になし
■学生指導：メンタルヘルスケア(カウンセリング)、発達障害に対するケアなど						
21	学生指導上のメンタルヘルスに関する知識習得	専門家による指導方法・学生指導上の注意点について事例を交えて学ぶ(対発達障害等)	学生・保護者とのスムーズな対応	教員、生活指導員	1日	希望なし
22	メンタル面での学生指導(カウンセリング等)	—	初級レベル	教員	1日～2日	夏期
23	学生指導(メンタル面)	本格的なカウンセリング理論とまでいかなくとも、学校としてできる範囲がどの程度なのか、医療機関との連携などが図れるもの	—	—	—	—
24	発達障害者の対応方法	・講義・ワークショップ形式 ・発達障害の基礎知識 ・他校の取組事例	発達障害とは何か、対応時の留意点等について理解する。	教員	1日	随時

S.No	研修テーマ	内容・形式・講師等	到達目標、レベル等	対象者	日数	実施時期
25	学生指導について (メンタル面)	カウンセリング等の指導方法 ツールの活用など	—	—	—	8月・2月
26	メンタルサポートの ノウハウ 세미나	講義・ケーススタディ	—	教職員	—	夏休み
27	カウンセリング方法	学生指導や就職指導を行う時にプロのカウンセリング方法を学びたい。グループワーク、ディスカッションなど	初級～中級ぐらいのレベル	教員	1日または2日	夏期休暇中(7月、8月)
28	学生との接し方	ハラスメント関連の講演 事例研究(ディスカッション)	学生指導において、ハラスメントを未然に防ぐことができる。	全教員・職員	2日/ 12時間	—
29	カウンセリング (学生指導)	実習形式(ワークショップ)	就学、就職への支援 できる(小さいことから～)	教員	2日	夏期休暇中
■学生指導：学習面、基礎学力向上など						
30	リメディアルと専門 技術のブレンド教育 の在り方セミナー	講義・事例紹介	—	教員	—	夏休み
31	基礎学力向上に関する 取り組みの事例紹介	クラス内の学力差を前提とした基礎学力が 低い学生に焦点を当てた取り組みを事例として共有する。	自組織で実現するための体制案、スケジュール案の概要を作成する。	担任	2日	8月・2月
32	学生の勉強の 取り組み方	自発的な予習、復習の取り組みができるような授業の仕方を教えてほしい	—	教員(担当助手含む)	1日～2日	8月
33	専門技術習得向上 のための基礎学力 について	入試制度をどうしているか、入学後の基礎学力向上に向けてどう指導(授業)しているか等、他校の情報またはどう設定するのがよいのか。	—	—	—	—
■授業評価						
34	授業評価に関する 取り組みの事例紹介	授業評価を行うための体制やスケジュールなど工夫しているポイントを事例として共有する。	自組織で実現するための体制案、スケジュール案の概要を作成する。	各学科リーダークラス	2日	8月
■キャリア教育、就職指導など						
35	幅広い学生層に対応した就職対策	障害のある学生、問題抱えた学生への就職支援の方法。行政的なアプローチも含めて。	初歩的なレベルで事例発表も含めて	教員、担任、就職担当	1日～2日	夏休み

S.No	研修テーマ	内容・形式・講師等	到達目標、レベル等	対象者	日数	実施時期
36	専門学生に向けた、就職指導研修または就職指導者向け研修	自発的な学生・積極的な学生と消極的な学生・就労困難な学生などの多様化に応える就職指導。様々なパターンの就職指導例等。	クラスマネジメント力の向上と合わせて、卒業年度までの学生指導計画 ・就活マネジメントなどの習得。	教員全般	半日～全日	春期
37	IT企業採用担当者から見た就職指導	・採用担当と現場の人間との違い ・企業ではどんな人間を求められているか人間性、技術等	—	—	1日	—
38	就職活動における学生指導について	・どういったプロセスを準備していけばよいか。 ・自分が興味がある分野、分析など。	・学生指導がスムーズにいき、学生が就職活動における準備や心構えができること	教職員	2時間	—
39	マーケティング入門	・社会情勢の把握方法を知る。 ・講義形式 ・グループワーク	社会情勢をとらえて自分が何をすべきかを客観的に把握できる学生を育てられる。	教員全員	3日適度	特になし

#### ■企業連携

40	企業連携によるFDおよびSD	職業実践専門課程におけるFDおよびSDの在り方を考える。 専門研究者による事例紹介	学内において定期的に企業連携によるFD、SDを実施する。	校長、学科長	半日	—
41	企業との連携	現状、企業連携は企業の人との講話を受ける(職業人講話)、インターンシップの他は学生を一般セミナーに参加させるといった内容にとどまっており、今後文部科学省の方針で企業連携が推進される中、体系的な手法、進め方、留意点など学校としてノウハウを持つておくべきと考えます。	—	—	—	—
42	企業との連携	企業連携をどのようにカリキュラムに導入していくか企業と学校の双方にメリットがあるようにするには。	—	教員	1日	9月
43	企業連携教育	実践的な教育と企業の協力を得て実施する場合の問題点や考慮する点について事例を含んだ説明会	協定内容や契約書類のフォームおよび学生への指導ポイントを学ぶ	教員	半日	前期
44	企業との産学連携事例紹介	全国で企業との産学連携を実施している学校の担当者を招き、成功事例を紹介して頂く。	—	教育部担当	1日	—
45	求人ニーズの高い技術のカリキュラム構築	企業の技術者から、学校に求めるカリキュラムの例や、具体的な教育プログラムの研修	新年度のカリキュラムに取り入れられるレベル	教員	1日	8月
46	実習実施法	学生が校外に実習に行く際、学校と企業との連携方法の他校事例(実習時間について、賃金について、企業に求める指導内容について等)	—	教員	1日	8月

S.No	研修テーマ	内容・形式・講師等	到達目標、レベル等	対象者	日数	実施時期
■学生募集・広報など						
47	学生募集研修会、高校生ニーズ予測と検証	今後の5年～20年などの時代の変化やニーズの変化予測と全国的な動き、先進的な募集活動校などの事例を知る情報共有会。事例発表セミナー。	2020年募集計画の遂行。業種別・業務同行の把握。中間管理職以上対象。	広報関係	半日～全日	夏期
■学校運営全般：組織、会計、施設、安全管理など						
48	組織作りのためのノウハウ	講義、事例などを仕上げて行う。	現場の問題が明確になり、それに対応した業務内容	中間管理職	2日～3日	8月
49	個人情報取り扱いや機密事項の取り扱いについて	他校の方とも情報交換（保管方法や情報のレベル付け）できるセミナー、交流会	基礎的な情報取り扱い知識をつけ、学校内に反映させられるレベル	教職員	1日	夏期休暇中（学校）
50	学校法人会計について	・基本金について ・会計基準改正について	基本的なことが理解できる	—	1日	夏頃～秋頃
■業務推進能力向上、効率化など						
51	職員業務の合理化	職員（教務課、学生課、広報課など）の業務で、合理化・効率化に成功した事例、およびその経緯共有。	ノウハウとして利用できるレベル	職員	1日	いつでも
52	（接客、学生対応）マナー研修	講師を招いてのセミナー方式	基本的なマナー（話し方、服装、礼儀作法など）を再認識、意識づけ	事務職員	1日	夏期休暇中（学校）
53	PC基礎	MicrosoftOfficeを使いこなせるようになる講習会	—	—	2日	8月、10月、11月
54	officeソフトの活用における効率向上	実習形式（演習）	関数の習熟	教員	3日	夏期休暇中
■その他						
55	新しい学校種への取り組み	中教審諮問後、早めに情報獲得したい。	—	—	—	—
56	職業実践専門課程認定学科担当の研修会等	学科長の学科管理を対象とした職業実践専門課程運営に関わる勉強会。企業ニーズの開拓方法や学科別分野別のグループディスカッション等にて企業ニーズ等の洗い出しや今後の職業教育に向けた意見交換等。	効率的かつ、より職業実践カリキュラム設定ができる。分野に求められている人材ニーズを企業から効率的に授業組み立てに反映できる。	教務管理職、学科長	1日半程度	—
57	専門学校の今後の方向性。職業実践専門課程～専門大学へのプロセスでのシステム変化	10年後～20年後の専門学校の方向性や展望。何が変わり、何が変わらないのか？メリット、デメリット	10年後の専門学校の在り方、方向性を共有する。	特に限定なし	1日～2日	いつでも

S.No	研修テーマ	内容・形式・講師等	到達目標、レベル等	対象者	日数	実施時期
58	他国の教育内容、考え方や事例	他国の多様性にある専門教育の方法、考え方を学びたい	教育推進国の状況た方針を知る。	特に限定なし	1日～2日	いつでも
59	最新の情報交流方法について	Facebook、Twitter、Instagramなどの情報交流(SNS)ツールが多様化する中、学生や企業の交流に生かされた成功事例の共有	年4回ほど毎年開催で常に最新の世の中のニーズに合わせての事例を共有できる。	指導者	2日	年4回
60	学校職員のためのメンタルケア	職員のメンタルヘルスについて		教職員	半日	6月～8月頃

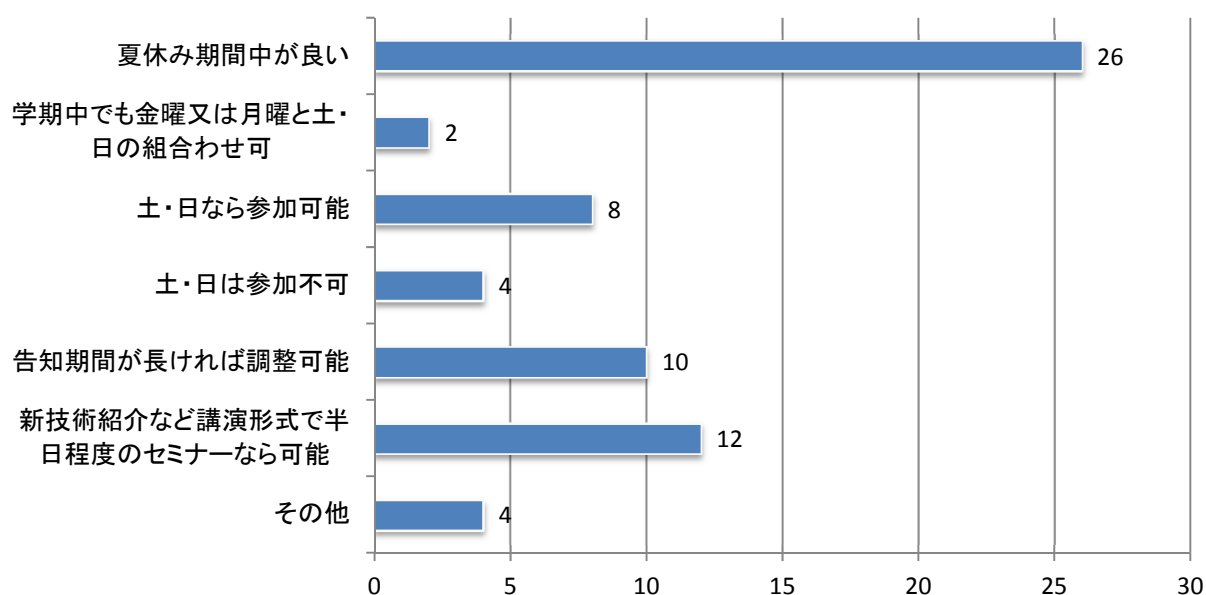


問3. パソコン等を用いた演習や、グループディスカッションを伴う研修は、2～3日を要するものが多くなります。実施時期・日数などについて当てはまるもの全てに○を付け、ご意見等をお書き添えください。

■研修次期について:

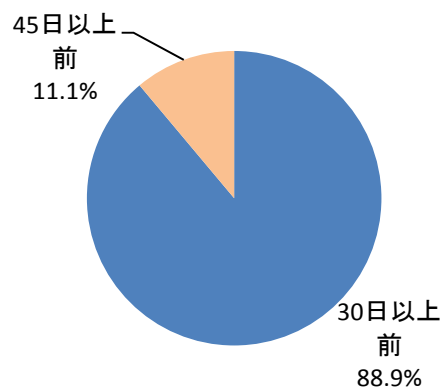
S.No	項目	回答	%
1	夏休み期間中が良い	26	61.9%
2	学期中でも金曜又は月曜と土・日の組み合わせ可	2	4.8%
3	土・日なら参加可能	8	19.0%
4	土・日は参加不可	4	9.5%
5	告知期間が長ければ調整可能	10	23.8%
6	新技術紹介など講演形式で半日程度のセミナーなら可能	12	28.6%
7	その他	4	9.5%
合計		66	—

※%の母数は回答者数(=42)、複数回答



◆”告知期間が長ければ調整可能”な場合、最低何日前の告知が必要？

S.No	項目	回答	%
1	30日以上前	8	88.9%
2	45日以上前	1	11.1%
合計		9	100.0%



◆その他

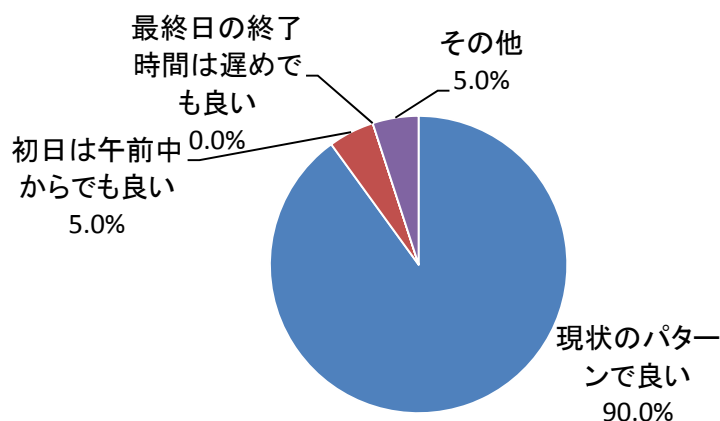
・当校では、業務の都合上において2日以上になりますとかなり厳しい状況下になってしまいます。

・2月

・10月、11月

■日程について:

S.No	項目	回答	%
1	現状のパターンで良い(初日:午後スタート、最終日:15時頃終了)	36	90.0%
2	初日は午前中からでも良い	2	5.0%
3	最終日の終了時間は遅めでも良い	0	0.0%
4	その他	2	5.0%
合計		40	100.0%



◆”初日は午前中からでも良い”場合、東京駅ベースで何時頃のスタートなら可？

・11時頃

◆その他

- ・夏季休暇期間であれば、宿泊を前提に初日を9:30開始 最終日を17:00で実施してはどうか
- ・当校の立地条件からの視点になりますが、新大阪駅を7時に乗車すれば東京駅周辺の会場ならば午後6時くらいまでならば大丈夫かと思います。

問4. 視察してみたい場所(国内外)、内容の概略、適当と思われる期間(日数)を教えてください。

S.No	視察地	視察内容	何月頃	期間
1	新潟県	新潟会計ビジネス専門学校	7月～8月	1日
2	ベトナム	IT業界と教育の現状について情報収集	8月	5日間くらいで
3	東京	専門学校内	11月	2日くらい
4	大学または専門学校	学生主体で取り組んでいる研究室を見学	8月ごろ	8月ごろ
5	企業との連携がうまくいっている学校		-	-
6	アメリカ、ヨーロッパ	デザイン、美術教育のカリキュラム、プログラム	7月、8月頃	5日くらい
7	国内(学校)	学生数を増やし卒業生の社会貢献度の高い学校	8月頃	1日
8	富山	ものづくり関連施設	8月31日ごろ	1日くらい
9	広島県	高等専修学校が多いとされているので学校の組織や校風について見学	11月頃	1日くらい
10	東京、大阪	企業との連携が進んでいるところ	いつでもよい	-
11	はこだて未来大学	原田泰先生の「情報デザイン」関連の授業	7月頃	1日くらい

**問4. 職業実践専門課程導入にあたり、抱えている問題・課題等がございましたらお書きください。**

- ・職業実践専門課程の今後の展望について
- ・各学校の具体的取り組み事例を学ぶ機会（研修会）があればよいと思います。
- ・専門学校なので、企業との連携自体はあるが、教員研修の機会がなかなかない。  
他校はどのように行っているのか知りたい。
- ・来校して頂く先生方の時間調整がとにかく困難な状況です。
- ・専門委員会実施の時間確保および依頼する企業・業界団体との調整の難しさ。
- ・企業と連携した授業について成功事例や失敗事例など情報が欲しい
- ・陶芸を学んだ学生の就職先確保
- ・常勤講師の指導力向上
- ・企業との連携のレベル、コーディネータの役割、手法
- ・連携できる企業を見つけることが難しい
- ・企業との連携する際の各種調整、コスト等
- ・企業間連携とカリキュラムとの整合性を図ることが難しい。
- ・企業間連携との連携、事業者での書類記入が多くなり、企業の負担感が少し多くなった。
- ・資格対策という方向性が多くなるようだが、美術デザイン系の教員には若干差異がある。
- ・職業実践専門課程 認定学科の実績値のより良い開示方法。一般の方へのより高い理解度の向上。
- ・協定書、アンケートなどの数が多くなりすぎている。書類作成の業務が大変になってきている。
- ・教職員（管理職を含め）の資質、学生の資質が職業実践専門課程の学校として、学生としてにあっていないか？  
またはおいついているか？
- ・企業と連携した授業の取り入れ
- ・職業実践専門課程の認定学科と未認定学科の相違を鮮明にすること。外部評価。

**問5. 現在困っていることや、抱えている問題・課題等がございましたらお書きください。**

- ・平日は授業があり、夏休み等の長期休暇にはオープンキャンパスなどの行事がはいっているため、  
研修に出向く機会がなかなか取れない状況です。貴協会で魅力ある研修を計画していただき、  
学校において短期の研修などを実施する「出前研修」があればご検討をお願いします。
- ・心の問題を抱えた学生に対する支援が多くなってきており、情報交換や勉強会の方が欲しい。
- ・専門学校のクラスマネジメント能力向上について
- ・教職員の連携が課題だと思っています。
- ・心の問題や精神疾患を抱えた学生に対するケース別具体的対応方法の修得と全教職員でのノウハウ共有
- ・勉強スキルを持っていない学生や悟り（決め付けが強い）学生が多く、強いて言えば、  
このような学生の保護者にも共通な独特な考え方を持っている傾向にあると感じている。
- ・心の問題を抱えた学生のフォロー
- ・精神疾患を持つ学生への対応及び他のクラスメイトのケアなど
- ・心の問題を抱えた学生に対する心理カウンセリング
- ・教員の人材確保が難しい点
- ・IT分野のインターンシップを数多く実施させたいが、関東中心など物理的制約のため実現できていない
- ・親の考え方や家庭の経済的な問題が学生に与える影響
- ・専門学校の教員間での共通意識のつくり方・業務の多様化と個々の時間の確保
- ・学生アンケートの向上目標に対する対策案の検討。・男子学生・女子学生の修学意欲や気質の違いの把握
- ・カリキュラムなどの規定が大幅に変更したときの調整・学生便覧などの作成のノウハウが不明確
- ・学生募集について
- ・学生の基礎知識レベルが低下していること

- ・精神的な問題を抱え、コミュニケーションがはかりづらい学生、  
またそういった問題がなくても対人面が苦手な学生に対する接し方（注意点）
- ・本校はアナログ的な感覚で制作することが多いため、デジタルの理解度が学生によって個人差がある。  
分かりやすい授業の進め方を知りたい。
- ・地方の社会ではまだ職業実践専門課程について具体的に知られていないところがありました。  
まずは伝えていければと思いました。
- ・社会人基礎力についての指導についていつも不足を感じています。
- ・学校に登校する意欲が低下している学生やその保護者に対しての声かけや対応について
- ・能力差の大きい集団での学生の興味や関心を引きつつ、計算力、思考力をつける授業の工夫
- ・子供をかまいすぎる母親に対する処置の方法